



# かきぬいひがし通信

～仲間とともに伸びる子 主体的に学ぶ子 いのち・人権を大切にする子～

<今月の巻頭言>

校長 松宮 孝明

## 「 しかられない子どもたちの不幸 」

第2学期が始まりました。元気な子どもたちの様子を見てみると、夏休みが短くても楽しんでくれたんだなあとうれしい気持ちです。休みの間、温かく見守りはぐくんでくださった地域やご家庭の皆様へ感謝します。8月号でお話した「恩送り」について、おぼえていただいていますか？保護者の中には、家で話して、実践していますとおっしゃってくださった方がいてうれしかったです。

以前読んだ、岩井忠彦氏の文章を紹介します。

駅の通路に子どもたちが座っている。通行する大人たちは顔をしかめても注意はしない。せいぜい近くの学校に苦情の電話をするだけである。「立ちなさい。」と声をかけてみる。すぐには立ち上がらない場合が多い。反応が遅いので待ちきれず、「みんなが迷惑している。ここは座るところじゃないよ。」と重ねて注意する。すると、ようやく、時にはうるさいなと言って動き始める。これが普通である。意識的に反抗しているのではない、と私は思う。注意されたりしかられたりした経験に乏しいので対応の仕方がわからないのではないだろうか。

欧米の「しからず、ほめる」教育論が導入されて久しい。子どもは本来すばらしい存在だから、必要なのはしかるのではなく、内面の理解だという教育論が日本でも主流になった。ここに大きな落とし穴があった。確かに欧米の教師たちはしからず、大げさにほめる。しかし、その背後にはキリスト教という巨大な文化がある。子どもたちの多くは日曜日になると教会に出かけるし、罪の文化が底流にあるから幼児期のしつけの厳しさは日本の比ではない。そのかわり、成長とともに自己責任を前提にした自主性の幅を広げていく。

日本では逆に子どもを放任し、成長するに従って厳しい社会規範を課してきた。ところが、その多くは社会の変化によって姿を消した。規範の遵守を求め、注意し、しかる最後の憎まれ役を引き受けてきた学校は、そのために本気で憎まれるようになった。しかって嫌われるより、ほめておく方が、教師にとっても気楽である。子どもを厳しくしかる光景は学校でも次第に、まれになった。日本の子どもは注意され、しかられる機会を失ってしまったのだ。だれにもしかられない日本の子どもたちは本当に幸せなのだろうか。

読み終えられて、どうお感じになりましたか？私は、ほめる教育論には賛成です。しかし、ほめるだけでは子どもは望ましい方向へは成長しないと思います。あえて言えば、私が担任をしていたころは、しっかりしかるために、普段から良いところ、良い行いをしたところをたくさんほめて信頼関係を築きました。（その信頼関係のもと、自信を持ってきつくしかってきました。そして、子どもはそれに応えてくれました。保護者は支援してくれました。）また、「自由奔放に放任するためにも、幼児期にはとんでもなく厳しくする。」という部分にも、ああ！そういうものなんだと感心しました。

大変長い2学期になりますが、「個々の子どもたちにはきめ細かく」関わり、「集団としては、時に厳しく規律ある学校生活を送れるように」関わり、精一杯指導して参りますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。

最後に筆者は、「しかられない子どもたちが幸せか不幸かの結論は、歴史的事実として明らかになりつつあるように思われる。」と、締めくくられています。

# 運動会や修学旅行等の行事について

運動会や修学旅行、校外学習につきましては、実施方法や方面等について検討を進めているところです。新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、子どもたちが安心して楽しめるよう、計画を見直しています。

## ○運動会

10/3(土)の午前中に、2部に分けて実施する予定です。なんとか子どもたちの姿を観ていただけるよう検討していますが、現時点では観覧の可否は明確にできません。詳細が決まり次第、できるだけ早くお知らせします。申し訳ありませんがご理解くださいますようお願いいたします。

## ○第6学年修学旅行

「11/19(木)～11/20(金) 広島方面」を「11/20(金)～21(土) 奈良方面」に変更して、計画を検討しています。11/24(火)が振替休業日となります。

(主な変更理由) 以下の3点について、感染症リスクを低減できると判断したためです。

- ①不特定多数の人と接触する新幹線移動から、バス移動に変更することができること。
- ②宿泊施設が、3蜜の状態を回避しやすい環境となること。
- ③活動場所や宿泊施設が近くなることで、不測の事態が生じた際の対応がしやすくなること。

現在、詳しい内容について計画を立てているところです。今後、可能になった多段階で、お知らせしていきます。

## ○学習参観

現時点では、例年のような形で学習参観を実施することは、難しい状況です。実施が見込めるようになった際には、できるだけ早くお知らせいたします。よろしくご理解ください。

## 笠縫東小：こころの教育コーナー

### 目標に対して強い気持ちを持つ

「人より優れていたいという気持ちは、目標達成に向けたエネルギーになる！」

アドラーは、人より優れていたいという気持ちは、人にとって大切な気持ちだと言っているよ。

目標を達成しようとする力はこの気持ちから生まれると言っているんだ。

でも、これは、人を蹴落として自分が上に立つということではないんだよ。特定の誰かと比べて自分の方がすごいと思われたいのではなく、どんな人よりも自分が優れている状態になりたいということだよ。

大リーグのイチロー選手も、打つ・守る・走るの3つが最高にできる人がプロ野球選手であり、自分はそういう選手でありたいと言っている。そして、それに対してものすごく努力している。

これは、イチロー選手の、目標に対する強い気持ちの表れなんだね。

みんな、一人ひとり、まずは目標に対する強い気持ちを失わずに、きちっと持ってこようね。

(「超訳 こどもアドラーの言葉」 齋藤 孝 著より)